

論文審査結果の要旨

本論文については、博士論文公開審査会（平成30年8月2日、於文学部会議室）において内容説明がなされ、その後質疑応答が行われた。公開審査会で提出された主な論点は、以下のとおりである。

- ①題名が適切であるか。
- ②日用類書各本の具体的な関係について。
- ③「影響力を持つ書物」の実態について。
- ④当時の版権の実態について。
- ⑤武芸書における趙匡胤の形象について
- ⑥『飛龍全伝』などの小説と『北宋志伝』などの歴史小説の関係について
- ⑦日用類書の受容者について

本論文は、明代に刊行された膨大な数の日用類書について、その本文を精査し、各日用類書間の関係を明らかにするとともに、その制作過程の解明を試み、かつ日用類書や実用書と白話小説の関係にまで論じ及んだものである。

これらの研究が目的とするのは、明代後期、経済の活況と識字率の向上に支えられて商業出版が急激な発展を遂げる中で、新たに生まれた中下層識字者を対象として制作・出版された書籍の実態を明らかにし、そこから制作主体である書坊（出版社）の営業方針や書籍制作の実態、更には読者層の姿を解明することである。ここで新たに誕生した不特定多数を対象とし、商業目的で大量複製される書物こそ、今日に至る近代的出版の出発点をなすものであり、そこで生じた読書の形態は、楽しみのために書物を読むという近代的読書の開始を告げるものであった。そうした意味で、本研究は大きな意義を持つと見てよい。

この目的を達成するために、筆者は数多くの日用類書の本文に精密な比較検討を行い、本文の内容により系統分けを行った。多大な労力と複雑な状況を解析していく能力を要するこの作業を行い、一定の成果をあげたことだけでも評価に値するが、更に重要なのは、それぞれの日用類書が依拠した書物がある程度まで割り出し、そこから日用類書の制作手法を一定程度復元したことである。従来の研究では、日用類書の原拠までは考えても、そこから制作手法の解明に進むという発想はほとんどなかった。しかし、これは書坊の営業内容の探究、更には中下層識字者向け書籍の制作方法の解明という点で、マスメディアの成立と近代的読書誕生の過程について研究を進める上で非常に重要な意味を持つものである。同じような題名と内容を持つ多数の日用類書を扱い、本文異同の状況も複雑を極めるため、叙述が明晰さを欠くという問題点はあるものの、これは扱う対象の性格上ある程度避けがたい点であり、本論文の価値自体は高く評価される。

また、武芸者を主人公とする白話小説が武芸の専門書と関係を持つこと、しかも両者は相互に影響を与えあうという複雑な関係にあること、その記述が日用類書の武芸部門に取り込まれ

ていることを実証したことは、白話小説制作過程の一端を示すものであるのみならず、これら中下層識字者という新たに登場した読者層を対象として刊行された書籍が、相互に関係を持ちつつ制作・刊行されていったことを示すものとして、高い価値を有する。このことは、近代的出版がどのようにして成立したか、その過程を解明する上で、重要な一歩となる可能性を持つものである。

以上のように、本論文は、深い問題意識のもとに、膨大な文献に対して精密な調査を行い、重要な意義のある結論を示したものであって、本学における博士の学位授与の評価基準を満たしているものと判断される。よって本委員会は、本論文が博士（文学）の学位を授与するに値することを認める。